大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2023年 第43週(10月23日~10月29日)

今週のコメント

~A群溶血性レンサ球菌咽頭炎~ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2週続けて増加」

第43週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,420例であり、前週比8.1%増であった。定点あたり報告数の第1位は咽頭結膜熱で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.86、3.75、3.44、0.71、0.49である。

咽頭結膜熱は前週比8%増の760例で、北河内6.48、中河内5.75、南河内4.19、三島4.13、大阪市北部3.86であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13%増の738例で、北河内5.08、泉州5.00、大阪市西部4.50である。

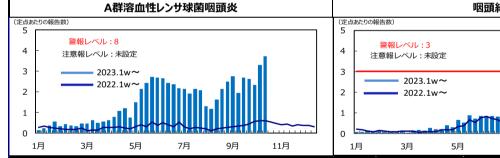
感染性胃腸炎は9%増の677例で、南河内6.38、大阪市南部4.33、大阪市西部3.90であった。

流行性角結膜炎は8%減の37例で、泉州1.33、南河内1.00、大阪市東部0.83である。

手足口病は11%増の97例で、南河内0.81、大阪市北部0.79、大阪市東部0.73であった。

インフルエンザは12%増の3,859例で、定点あたり報告数は12.65である。南河内18.71、大阪市北部15.68、堺市15.48、泉州15.21、大阪市西部14.93で、大阪市東部と大阪市南部を除き、注意報レベルを超えていた。年齢別では、10歳から14歳の占める割合が高い状況が続いている。9月以降、大阪府内で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3、AH1pdmであった。

新型コロナウイルス感染症は28%減の555例で、定点あたり報告数は1.82である。大阪市南部2.56、北河内2.17、南河内1.96、大阪市北部・豊能1.84であった。



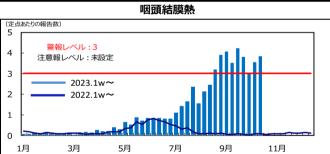


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2023年 第43週10月23日~10月29日)

		感染症	2023年		2022年	2023年第43週の		
第43週	第42週		第43週の	前週比	第43週の	年齢別		
の順位	の順位	然未進	定点あたり	増減	定点あたり	患者発生数		
			報告数		報告数	最大割合値		
1	1	咽頭結膜熱	3.86	8%増	0.07	3歳_18%		
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.75	13%増	0.60	5歳_15%		
3	3	感染性胃腸炎	3.44	9%増	1.98	1歳_14%		
4	4	流行性角結膜炎	0.71	8%減	0.13	20歳以上_70%		
5	5	手足口病	0.49	11%増	1.28	1歳_51%		
参考		インフルエンザ	12.65	12%增	0.08	10-14歳 28%		
		(インフルエンザ定点報告疾患)				<u>_</u>		
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	1.82	28%減	-	10-19歳_16%		

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザは、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

新型コロナウイルス感染症の詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降(大阪府)』の情報をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

2023/24年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

~エムポックス (mpox) ~ 2023年第43週までに大阪府で21例報告されている

全数把握感染症

エムポックス (mpox)

エムポックス(mpox)は、エムポックスウイルスによる急性発しん性疾患である。(i)主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合(性的接触を含む)、

- (ii) 患者と近くで対面し、飛沫に長時間さらされた場合、
- (iii) 患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染する。人々が長期間、頻繁に密接に接触する集会は、エムポックスの感染リスクを助長する可能性があり、集会参加者や主催者へ向けた感染拡大防止の注意喚起や啓発活動を積極的に実施することが重要である。 世界保健機関(WHO)によると、世界での2022年5月以降の流行では、9万人以上の感染例が報告されている(2023年9月19日時点)。国内では、2022年7月以降患者の発生が続いており、第42週時点で213例(前週比+1名)の症例が確認されている。

エムポックスとは(国立感染症研究所) エムポックスについて(厚生労働省)

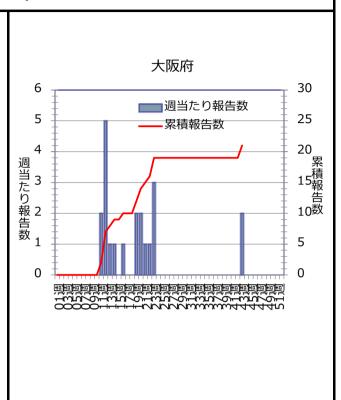


表 2. 大阪府全数報告数 (2023年 第43週10月23日~10月29日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6			3				1	2	181
4類感染症	エムポックス	2	2								21
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7		2			2			3	140
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1								45
 5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	7	2	1		1		1		2	118
り規念来症	水痘(入院例)	1								1	23
	梅毒	16	1	2		1	1		2	9	1,657
	百日咳	2						1	1		38
結核	結核 新登録患者数:56名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 20名)										
(2023年8月分) (府内累積報告数 713名、内 肺・喀痰塗抹陽性 249名)											

(2023年10月31日 集計分)